



収蔵された女川遺跡資料



女川遺跡から出土した
半円筒状ガラス製品

帰ってきた女川遺跡資料

ながらく高知県立埋蔵文化財センターへお預けしていましたが、横倉山自然の森博物館へ返却されることになりました。

女川遺跡とは高知県高岡郡越知町越知字北屋敷（女川）で見つかった遺跡で、昭和51年刊行の『全国遺跡地図高知県』の時点で掲載されている遺跡です。この遺跡からは、縄文時代後期を中心とする石鏃・石槍・石斧・石核・剥片・土器及び土師器・須恵器などが採集されていました。女川遺跡は以前から知られている遺跡ではありましたが、それまで発掘調査は行われていなかったために、どのようなものが埋まっているのかについてはわからないことが少なくありませんでした。そして平成7年には女川遺跡の範囲内において、複数の開発事業が予定されていることが判明しました。

そこで越知町教育委員会は高知県教育委員会と協議のうえ、将来の開発行為に対処できるよう、遺跡の基礎データを収集するための発掘調査を行うことを決めました。この調査は、越知町教育委員会が主体となって実施する、初の埋蔵文化財発掘調査でもありました。

調査は平成7年12月より平成9年3月の期間、数回にわたり行われました。平成9年3月にはそ

の結果の説明会が女川地区で執り行われました。結果の概要は以下のようになります。

- 種別
集落跡
- 主な時代
縄文時代、弥生時代、古墳時代、中世、近世
- 主な遺構
土坑状遺構、ピット状遺構群、石列状遺構、ピット状遺構
- 主な遺物
縄文土器、弥生土器、土師器、土師質土器、須恵器、瓦器、瓦質土器(?)、備前焼、青磁、白磁、陶器、磁器、土錘、石鏃、石錐、尖頭器(?)、スクレーパ、2次加工ある剥片、石核、石錘、叩石、磨石、砥石、台石、石皿、引き臼、半円筒状ガラス製品、銭貨、鉛玉
- 特記事項
半円筒状ガラス製品（本誌第2号でも紹介しています）が出土。弥生時代前期の石器製作跡を確認。

調査によって出土した資料は研究のために高知県立埋蔵文化財センターへお預けしていましたが、地元の越知町での保管が望ましいということになり、当館へ戻ってきた次第です。

博物館に収蔵されたコンテナ53箱となる資料は、越知町の歴史を語る貴重な物です。博物館として大切に保管するとともに、多くの皆様にご覧いただけるように展示や講座で活用していきます。

(やちもり しゅうじ/横倉山自然の森博物館 学芸員)



ポスター

「第28回コウモリフェスティバル2024 in 横倉山」開催報告

谷地森 秀二

2024年9月21日(土)から9月22日(日)にかけて、横倉山自然の森博物館と山笑ふ横島集落活動センターにおいて、第28回コウモリフェスティバル（以下、フェスタ）が開催されました。決して交通の便が良いとは言えない地域での開催にも拘らず、各地から多数の方に参加していただき、盛況のうちに無事終了することができました。開催に向けた経緯と開催内容などについて報告します。

私たちは、四国のコウモリに関して調査と情報共有を図る目的で各県にお住まいの方々と連携して活動を展開しています。これらの方々と「コウモリフェスティバル2024実行委員会」を立ち上げ運営をするようにしました。

会場として選んだのは、越知町。その町にある小さな博物館、横倉山自然の森博物館をメイン会場とし、サブ会場として廃校となった小学校を再利用した宿泊施設である山笑ふ横島集落活動センターとしました。

コウモリの会事務局との現地下見や調整準備の結果、コウモリの会と当館で共催、面河山岳博物館・西条自然学校・高知昆虫研究会・四国自然史科学研

究センター・いきものや（高知大学学生サークル）の協力で開催することが決まりました。

フェスタは、講演会やパネル展示、観察会によりコウモリの紹介や解説を行い、コウモリたちが森林と動物・生態系のバランスを維持するのに重要な役割を果たしていることを広く一般の方に紹介することを目的としました。

まずはイベントとして、2024年9月14日～11月4日にかけて、当館を会場に企画展「コウモリがいっぱい」を開催しました。展示資料は、コウモリの会ならびにコウモリの会会員の大沢夕志さん・啓子さんご夫妻からお借りした国内外のコウモリの写真、コウモリグッズのほか、横倉山や四国に生息するコウモリの研究についてのポスターとしました。



講演会の様子

◎フェスタ1日目：講演会と工作教室、観察会、懇親会（9月21日）

午前中は、当館で会場設置準備を行いました。

開会は13時。コウモリの会会長である山本輝正さんの挨拶、続いて小田保行越知町長から歓迎の挨拶と続き、講演会が始まりました。内容は「バットディテクター（コウモリ探知機）講習会」そして「コウモリ写真撮影講習会」と進んでいきました。

講演会の内容が比較的大人をターゲットにした内容で組みましたので、同時並行的に小さなお子さんも楽しめる工作教室「コウモリの消しゴムハンコを



企画展「コウモリがいっぱい」



缶バッジづくり

つくろう」と「コウモリ缶バッジを作ろう」を15時～16時にかけて行いました。

夕方からは、山笑ふ横畠集落活動センターへ移動して、体育館内でコウモリを捕獲するための特別な装置であるハーブトラップ設置の実演を行いました。使用したハーブトラップは四国自然史科学研究センターが高知県在住の金属加工技術を持った職人と協力して作った機種で、参加者の皆さんの中には早速購入を検討された方も幾人か現れました。



ハーブトラップの説明と紹介



体育館で懇親会



消しゴムハンコ作り

この後、体育館で懇親会となりました。懇親会で出す食事は山笑ふ横畠集落活動センターのみなさんと博物館友の会会長にご用意いただき、越知町ならではの食材を使った料理をふるまっていただきました。開会にあたって織田 誠越知町教育長からの挨拶があり、乾杯へと進みました。コウモリの会恒例のコウモリグッズオークションを交えながら、コウモリの話で楽しい夜が過ぎていきました。

◎フェスタ2日目：総会、講演会（9月22日）

2日目は、9時からコウモリの会総会を横倉山自然の森博物館で開催しました。

総会を終えたのち、10時から講演会がスタートしました。まず、コウモリについて多くの方に知ってもらうために佐野 明さん（三重県総合博物館）による「知ろう、守ろう コウモリのお話」をいただきました。小さなお子さんから大人の方まで、とても熱心に聞いておられました。その後、「四国のコウモリのおはなし」として、矢野真志さん（面河山岳博物館）による「愛媛県のコウモリ、石鎚山での調査成果」、佐藤雄大さん（徳島大学）による「徳島県のコウモリ、那賀川での研究紹介」、最後は谷地森から「高知県のコウモリ、最近の話題」と話題提供がなされました。

12時30分で全てのプログラムは終了しました。参加いただきました皆さま、スタッフそしてボランティア応援の皆さま、会場となった山笑ふ横畠集落活動センターの関係者、そして多大なご協力をいただきました越知町町民の皆さまに、この場をお借りしてお礼申し上げます。そしてまた四国でのフェスタ開催ができるよう願っています。

（やちもり しゅうじ／横倉山自然の森博物館 学芸員）

坂折川の底生動物群集と桐見ダムについて

井上 光也

まず題にある「底生動物群集」とは、川の底でくらししている動物たちのことです。例えば、カニやエビ、貝などがわかりやすい底生動物です。しかし、川の底生動物はほとんどが昆虫（いわゆる川虫、水生昆虫）です。今回の調査は、川にすむ水生昆虫を主な対象として調査しました。また、坂折川にある桐見ダムでは植物プランクトンが発生しています。植物プランクトンは水中をただよっている生き物なので、池や湖のように流れがない場所で多く、流れがある川ではわずかしきません。ダムができると川の流れがなくなり、植物プランクトンが多くなります。今回の調査ではダムとダムから流れ出た植物プランクトンも調査し、植物プランクトンと底生動物の関係について調査しました。

今回の調査では合計134種類の底生動物が採集されました。川の水生昆虫は多くが幼虫なので、残念ながら私たちではより細かく種類を見分け、名前を特定できない種類もありました。つまり、実際の坂折川では134種類以上の底生動物がくらししていると考えられます。次は採集した地点ごとに底生動物をみてみます(図1)。ダムよりも上流の地点は、調査全体で採集された種類が最も多い地点でした。ヒラタ

カゲロウ属やフタバコカゲロウ属、ヤマトビケラ科など川の石についた藻を食べる種類が多く採集されました(図2の上段)。きれいな川にすむカワゲラ目も多く採集されました。ほかにはシマトビケラ属とヒゲナガカワトビケラ属が採集されました(図3の下段)。これらのトビケラの仲間はろ過食者とよばれ、石の表面や石の間にクモの巣のように自分の糸で網のような巣を作り、上流から流されてきたエサを巣にひっかけて集めて食べる種類です。ダムのすぐ下流、ダムから約800m下流の地点は採集された種類が最も少ない地点でした。石についた藻を食べる種類は少なく、エラブタマダラカゲロウやヒメトビロカゲロウ属など川の有機物を食べる種類が多く採集されました(図2の下段)。ろ過食者のトビケラは上流の地点と異なり、オオシマトビケラが多く採集されました(図3の下段)。オオシマトビケラはダムの下流で増加することが知られており、網目が細かい巣でダムの植物プランクトンを食べていると考えられています。また植物プランクトンを食べる生き物として、外来種であるタイワンシジミが採集されました。タイワンシジミは、環境省の生態系被害防止外来種リストにその他の総合対策外来種として選定されている種類です。タイワンシジミは高い密度で生息することが知られており、調査したダムの約800m下流の地点では平均で1㎡あたり63匹という高い密度で採集されました。さらに下流、ダムから約3km下流の地点では、ダムから800m下流の地点と比べると種類数も増え、水生昆虫の数はダムより上流の地点よりも多く採集されました。石についた藻を食べる種類(ヒラタカゲロウ属やヤマトビケラ科など)と有機物を食べる種類(チラカゲロウやヒメトビロカゲロウ属など)がともに採集

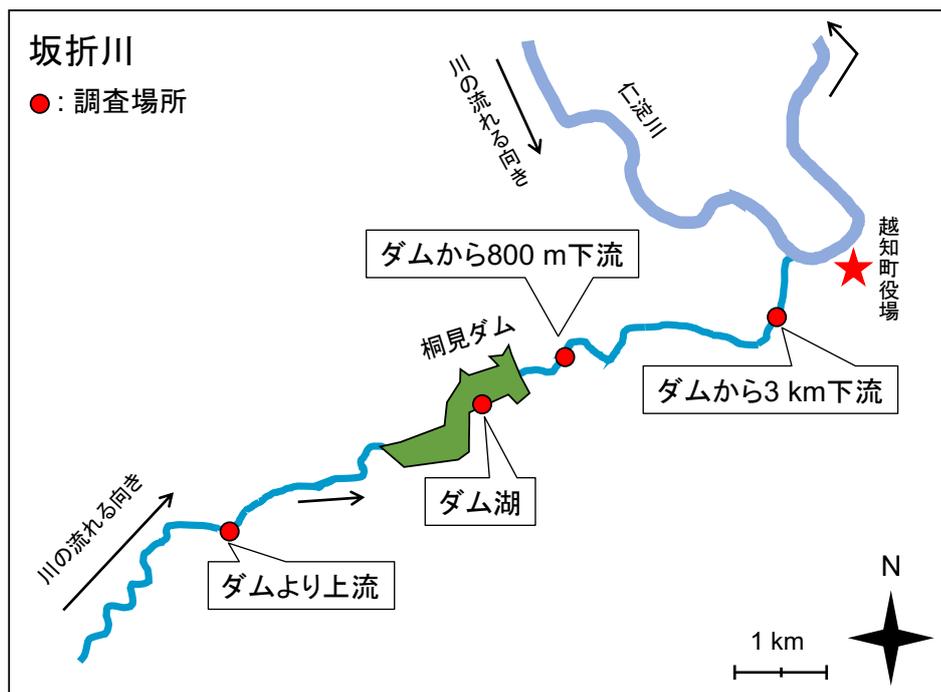


図1. 坂折川地図

されました(図2)。ろ過食者のトビケラは、シマトビケラ属、ヒゲナガカワトビケラ属が増えましたが(図3の下段)、オオシマトビケラやタイワンシジミも採集されました。しかし、ダムから800m下流の地点よりも多くはありませんでした。

坂折川の植物プランクトンの量は、ダムよりも上流の地点ではわずかで、ダム湖で大きく増加して、ダム

よりも下流ではダムからはなれるほど少なくなることがわかりました(図3の上段)。ダム湖の植物プランクトンの量は、上流の地点の量と比べると平均で約11倍、場合によっては約22倍にもなっていました。ダム湖からダムを通過してダムから800m下流の地点では、平均でダム湖の植物プランクトン量の約55%に減少し、ダムから3km下流の地点では平均でダム湖の約33%にまで減っていました。ダムのすぐ下流

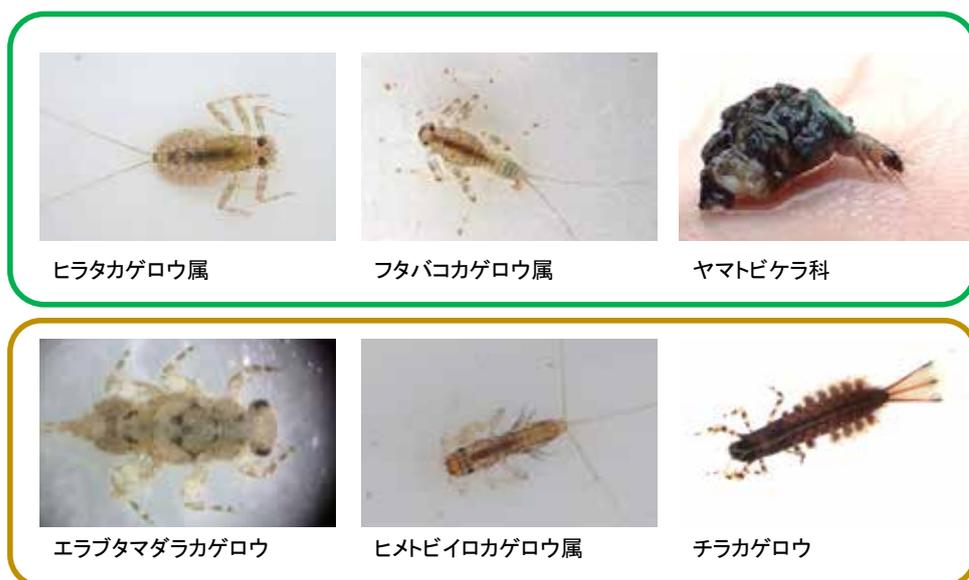


図2. 藻類を食べる種類(上)と有機物を食べる種類(下)

であるダムから800m下流の地点では、植物プランクトンを食べるオオシマトビケラやタイワンシジミが多く、3km下流の地点では少なくなっていました(図3の下段)。ダムから水とともに出た植物プランクトンは底生動物たちに食べられはじめ、ダムから3km下流の地点までにはダムの植物プランクトンはほとんど食べられていると考えられます。

坂折川は底生動物の種類も多く水質も良好であると考えられます。ダムの植物プランクトンによる影響もダムから3km下流までの間にかなり少なくなっているようです。たくさんの底生動物がすみやすいということは、身近な鳥や魚にとっても住みやすい環境があることにつながります。遊び場所もたくさんあることでしょう。川遊びの際に、エビやカニだけでなく川の虫にも注目してみてください。普段見慣れない生き物や場所によって種類が変わることを楽しめます。危険には十分配慮して、川で遊び、川に親んでもらえたらと思います。

(いのうえ みつや/高知大学)

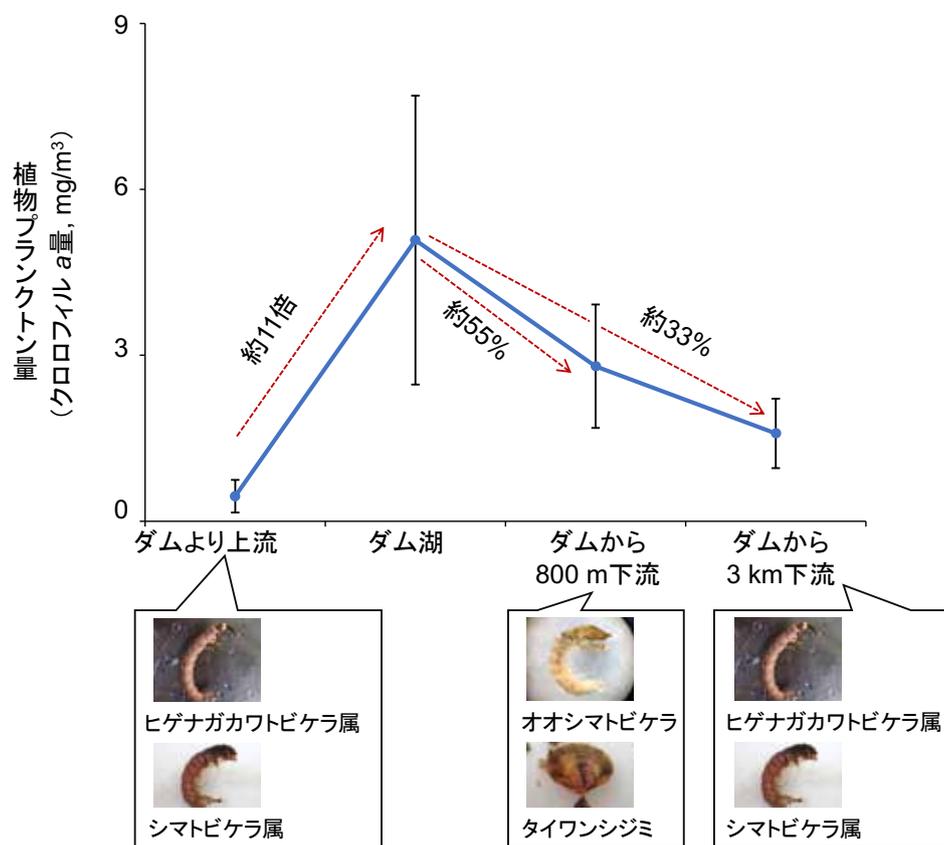


図3. 各調査地点の植物プランクトン量と主なるろ過食者

博物館行事

企画展

「越知の人たち～広報おち編～」

3月22日(土)～5月25日(日)【期間入館者数 1,201人】
 昭和46年5月号から始まった越知町の広報紙「広報おち」。越知町の人と暮らしを掲載してきた広報紙を、博物館で公開しました。越知町に暮らす人々に自身の故郷の変化に思いをはせてもらい、これからの越知町について考えるきっかけを提供する企画展です。今も変わらない人の営み、お父さんやお母さん、ひょっとしたらおじいさんやおばあさんの顔を見つめられたかもしれません。企画展で越知町の“昔”を見た皆さんが、「これからの越知がどうなっていくか？」について考えるきっかけをつかんでいただければうれしく思います。



「海洋堂ソフビフィギュア展」

7月5日(土)～9月7日(日)【期間入館者数 2,498人】
 令和6年の秋に海洋堂スペースファクトリーなんこくで開催された「海洋堂高知ソフビベスト100」が横倉山自然の森博物館へやってきました。このイベントは、海洋堂スペースファクトリーなんこくの1階工場「NANKOKU FAKUTORY」で製造されたソフビ作品で構成された展示会で、誰もが知っている特撮やアニメのキャラクターに加えて、精密に再現された恐竜や現代の生きものも紹介されていました。越知町と海洋堂は連携協定を結んでいることから、今回の企画展が実現しました。越知町での開催は初となる海洋堂のフィギュア展となりました。



「草を摘む～横倉山の植物標本展～」

9月20日(土)～11月30日(日)まで開催中

横倉山自然の森博物館には、「大倉植物標本」と呼ばれる横倉山で採集された植物のさく葉(押し葉)標本が約1,500点収蔵されています。これらは、2009年に高知県と財団法人高知県牧野記念財団により発行された高知県植物誌の調査時に採集された標本です。作製には植物研究家の大倉浩典氏をはじめとした多くの方々が協力され、当時の横倉山の環境を証明する貴重な資料です。この度、これらの植物標本を用いて、横倉山の植物の多様さ、そして標本をつくり未来へ継承していくことの大切さを広く知ってもらうために企画展を開催しています。



自然観察会「横倉山の生きもの調べ」

「スマレの仲間たち」

4月13日(日)〔講師：大利卓海(株式会社相愛)、参加者：7名〕

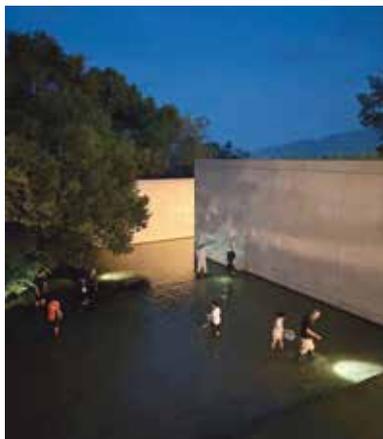
横倉山の第三駐車場から杉原神社までの間で、春に見られるスマレなどの小さな花を観察しました。当日は少々雨が降っていましたが、参加した方々は講師の大利さんの説明を熱心に聞きながら、見つけた小さな花の写真を撮ったり、図鑑と比べたりしながら楽しんでおられました。



「カエルのタベ」

5月17日(土)〔講師：谷地森秀二（横倉山自然の森博物館学芸員）、参加者：16名〕

博物館内で四国のカエル、横倉山のカエルについて写真と鳴き声のレクチャーを受けた後、水庭に入って、カエルをさがしました。見つかったカエルは、ニホンアマガエル、シュレーゲルアオガエル、ツチガエル、ヤマアカガエルの4種で、例年と同様の結果でした。暗くなってから、カエルたちは盛んに鳴き始め、種類による鳴き声の違いも紹介することができました。



「コオロギラン」

9月7日(日)〔講師：谷地森秀二（横倉山自然の森博物館学芸員）、参加者：14人〕

横倉山の代表的な植物で、多くの人に人気があるコオロギランを杉原神社の周辺で観察しました。今回は高知県内だけでなく、中国地方や関東地方からもご参加くださった方々がいました。あまり多くの個体を観察することはできなかったのですが、それでもきれいな花を咲かせたコオロギランを見つけることができ、参加者の皆さんはとても喜んでおられました。



講座「四国の自然・横倉山の自然」

「横倉山の化石と地質」

6月15日(日)〔講師：三本健二（高知化石研究会）、参加者：13人〕

横倉山ではシルル紀の三葉虫やサンゴの化石が多く見つかかり、デボン紀、白亜紀などの化石が見つかる場所もあります。講師の三本さんからは、四国と横倉山の地質と化石についてお話をいただきました。そのあと、ご用意いただいたシルル紀を中心に様々な時代の化石を観察しました。参加者の皆さんは、顕微鏡やルーペも用いて熱心に観察して、盛んに三本さんへも質問をしていました。



「企画展の展示解説」

9月21日(日)〔講師：宮地 萌（元 越知町地域おこし協力隊）、参加者：11人〕

現在開催中の企画展「草を摘む～横倉山の植物標本展～」の基になっている



大倉植物標本の整理を行った元地域おこし協力隊の宮地萌さんによる展示解説と、整理で大変だったこと、やりがいを感じたことなどをお話いただきました。当日は展示会場での説明に加えて、収蔵庫へも参加者の皆さんをご案内し、博物館が地域の自然情報の蓄積と継承に果たす役割について解説していただきました。

友の会だより

仁淀川勉強会「仁淀川水質調査」

6月7日(土)〔事務局職員で実施〕

身近な水環境の全国一斉調査は、毎年全国水環境マップ実行委員会が行っているイベントで、今年もフォレスト・クラブで参加しました。調査地点は宮の前公園および坂折川の2地点で、バックテストのキットを用いて水質の検査を行い、川底の石の下に潜む生物を観察してデータを取りました。



その結果、両調査地とも「たいへんきれい」と判断することができました。

横倉山三二歳時記

■ノウタケ

9月の中旬、国道33号線から横倉山自然の森博物館へ至る町道18号線の範囲に、今年はたくさんのノウタケが出現しました。ノウタケはキノコ的一种で、腐葉土の多い場所や森林内の地上に群生します。結構目に付く大きさで、通勤途中の車の中から見つけた時には、「誰かがフランスパンを落としていったのか？」と目を疑いました。触ってみるとフワフワしていて、マシュマロのようです。アスファルト道路のへりに数ヶ所出現していて、とても不思議な光景がしばらく続きました。その中の一つは数日後に粉々に砕かれて道路にちらばっていました。ノウタケが生えていた場所を見てみると、土を掘り返した跡があり、どうやらイノシシが食べ物を探していたようです。砕かれたノウタケを見てみると、ほとんど食べられた様子はありませんでした。イノシシの口には合わなかったようです。



(やちもり しゅうじ / 横倉山自然の森博物館 学芸員)

〈〈令和7年度下半期行事予定〉〉

〔博物館〕

企画展

～11月30日(日)

草を搞む～横倉山の植物標本展～

12月20日(土)～令和8年2月1日(日)

第6回越知小中学校学習発表

12月20日(土)～令和8年2月28日(土)

国立科学博物館巡回展

「WHO ARE WE 観察と発見の生物学」

自然観察会「横倉山の生きもの調べ」

10月19日(日) 仁淀川の石

11月16日(日) 横倉山の樹木

12月21日(日) 冬の鳥たち

1月18日(日) ※地学分野で調整中

2月15日(日) ※地学分野で調整中

3月22日(日) 水の中の虫たち

講座「博物館教室(四国の自然・横倉山の自然)」

1月4日(日) 国立科学博物館巡回展関連講座

「四国の哺乳類・越知の哺乳類」

〔博物館友の会『フォレスト・クラブ』〕

11月8日(土)～9日(日) 琵琶湖周辺視察研修

1泊2日

1月1日(木) 2026年の初日の出を横倉山で

友の会『フォレスト・クラブ』に入会しませんか？

フォレスト・クラブは、横倉山自然の森博物館の展示や教育活動を通じて、横倉山の自然史に関する知識や関心を高め、メンバー相互の親睦をはかる会です。みなさんも行事イベントを通して、仲間と一緒に学びながら交流しませんか？

年会費や特典などお問い合わせは
友の会事務局へ

友の会事務局 (博物館内) 0889-26-1060

高知県越知町立

横倉山
自然の森博物館



THE YOKOGURAYAMA
NATURAL FOREST
MUSEUM, Ochi

〒781-1303 高知県高岡郡越知町越知丙737番地12
TEL0889(26)1060 FAX0889(26)0620

<https://www.yokogurayama-museum.jp/>

- 開館時間：午前9時より午後5時まで
最終入館は午後4時30分
- 休館日：毎週月曜日(祝日の場合は翌平日)
12月29日から翌年の1月2日まで
- 入館料：大人……………500円(※20名以上
の団体は100円引き)
高校・大学生……………400円
小・中学生……………200円
- 越知への交通
高知——JR特急 約30分——佐川——バス 約15分——越知
JR普通 約50分

